

議 事 録

会議の名称	第3回三田市行政評価委員会
開催の日時	令和6年7月25日（木） 18時30分～20時00分
開催の場所	三田市役所本庁舎3階庁議室（オンライン併用）
出席した委員の氏名	赤澤委員長、馬場副委員長、中村（匡）委員、稲富委員、中村（倫）委員、大坂委員、小林委員、菊川委員
欠席した委員の氏名	本田委員、福田委員
出席した庶務職員の職及び氏名	後尾政策課長、川崎政策課副課長、鳴瀧政策課係長
その他出席者	寛長総合政策部次長、佐藤移住定住促進課長
傍聴者の人数	無し
議題	(1) 審議 (2) 今後の流れ及び答申書（案）について
会議の概要（結論）	(1) ヒアリング対象施策の質疑・応答 ① 「若者が集うまち」及び「地域活躍人材育成プログラム「三田スモカモス・プロジェクト」について (2) 上記1施策に対する委員会の最終評価及びヒアリング対象外施策に対する委員会の最終評価 (3) 今後の流れ及び答申書（案）について
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	・ 次第 ・ 第2回行政評価委員会議事録（案） ・ 「資料9」答申書（案） ・ ヒアリング対象施策所管出席者名簿 ・ 座席表
連絡先	総合政策部 政策課 電話（079）559 - 5038 内線 2212

1 開 会

・政策課長の司会により開会、配布資料の確認等

2 議 事

(1) 審議

＜資料8に基づき所管部署から事前質問及び第1回委員会が出された質問等について回答の概要を説明＞

＜ヒアリング対象施策のうち、残り1施策に対する委員会の最終評価＞

＜ヒアリング対象外施策に対する委員会の最終評価＞

①事前評価の状況、事前質問についての審議

委員 長：今回ヒアリングを実施する「若者が集うまち」及び『地域活性活躍人材育成プログラム 三田スモカモスプロジェクト』につきまして、市から説明をお願いします。

所管部署：「資料8」2ページ1から4の質問について回答いたします。

まず、1つ目の質問についてですが、令和5年度は220件の移住相談があり、相談内容は補助金の問い合わせ、さとエリアでの暮らしや就農、空き家などの物件などについて受けております。相談内容に応じて、関係機関や移住経験者である住まいるメンバーと連携し、検討段階ごとの支援を行っています。令和5年度からは、実際に三田を見ていただいたり地元の人の話を聞ける機会をつくるため、オーダーメイドで市内を紹介するツアーを新設、他にも住み替え支援補助や結婚新生活支援事業など新たな補助金メニューを増やすなど、効果的に移住につなげていけるよう取り組みを進めています。

続いて、2つ目の質問についてですが、平成29年度から3年間は期限付き補助として、上限10万円で団体への補助を行い、令和2年度から3年間は「こみんか学生拠点」への補助を行うことで学生のまちづくり事業を支援してきました。令和5年度から補助を見直し、個人の活動も可能として高校生から大学生まで多様な活動を支援するよう幅を広げるため、上限額を2万5千円に変更しています。なお、令和5年度実績で上限まで利用した団体は4団体中1団体のみという状況でした。補助額の設定については、これまでの利用実績や他の自治体での支援状況等も参考にしながら、必要に応じ見直し等も行っています。

続いて、3つ目の質問についてですが、スモカモスコミュニティについて、当初は実施年度ごとに参加者と各事業者のグループを作成して運営をしておりましたが、全てを一括で管理できるように別のツールで運用することとなりました。移行作業の際に過去参加者の一部は新たな登録を希望されなかったため、結果的に人数が減少することになってしまいました。コーディネーターについては、10月頃に育成プログラムを実施します。受講者はスモカモス卒業生の学生や社会人6～7人程度を想定し、修了者登録をする予定です。

最後、4つ目の質問についてですが、これまでは、学生のまちづくり事業が始まった平成28年度や、コロナ渦での学生生活の把握など、必要に応じてアンケートを実施してきましたが、アンケートの回収率が低いという課題もありました。今後については、イ

ベントなど学生が集まる機会や SNS を活用し、気軽に答えやすいアンケート内容にするなど委員のご指摘も踏まえ、若者の意見をお聴きしていきたいと考えています。

委員：「学生のまちづくり関連事業」について質問させていただきましたが、上限額が2万5千円だとかなり厳しいと思います。令和5年度実績で、4団体中1団体のみが上限額まで利用したと説明がありましたが、物価高騰等も踏まえ、上限額の見直しをお願いします。

所管部署：確かに上限額2万5千円は少ない金額になっていますので、どれくらいの額が使いやすいかなど、学生等に確認しながら必要に応じて改善に向け見直していきます。

委員長：10万円の時は、何団体ぐらい活用実績がありましたか。そもそも額が少ないから減ったという気がしますが、いかがでしょうか。

所管部署：平成29年度は4団体、平成30年度は5団体が活用されました。令和元年度は7団体と団体数は少しずつ増えていっています。今後、活動している団体の希望も聞きながら、上限額の設定を見直していきたいと思います。

委員：私も1団体として活用していましたが、上限額までは利用していません。交通費として使用しましたが、「三田を良くするために何かできた」という実感はありません。私は、補助金を活用した団体が、その後どういう活動をされているのか把握できていませんが、ただ補助金を支給するだけではなく、その団体がどう活動しているか等、市は把握されていますか。

所管部署：引き続き活動に対する相談を受けたり、悩みごとを聞いたり、現在も繋がりをもっています。ただ、団体によっては代替わりして、活動が縮小してしまったところや、次のステップに進んで行った団体もあり、繋がっている団体と、活動がなくなってしまった団体がありますが、いずれにしても、学生との連携窓口は移住定住促進課でありたいと考えていますので、今後も学生にアプローチできる関係性は持っておきたいと思います。

委員：ただ補助金を支給するだけでなく、その後の関係性も見直してもらえればと思いました。あと、私自身、当時の「若者のまちづくり課」からの働きかけがあって申請をしましたが、三田の大学に通っているだけの学生は、補助制度を知らない人も多いと思うので、学生が補助金を受けやすい仕組みを作ってもらいたいと思います。

委員：この補助金は単年度の補助ですよね。例えば、神戸市だとNPO法人に対し1年目50万、2年目30万、3年目20万を支給する仕組みがあります。三田でも、団体が複数年を希望すれば、検討してもいいのではないかと思います。

委員長：様式1に記載されている「0～4歳児童数」の基準年が約3,800人、年々減少して目標年度に3,500人と基準を下回る状況があります。市として、移住定住をどういう仕組みで考えているのでしょうか。私は、「0～4歳児童数」を増加させることは非常に難しいと思います。大体の方は、結婚して、小学校に入学するまでの期間に、教育・子育てがしやすい場所を探し、成人になるまで育てられる場所を探して、そこで家を購入したりするわけで、「0～4歳児童数」は、一番不安定で大変な時期となるので、例えば、職場に近い場所や他の要素が一番強い場所を、選択すると思います。その時期を目標に設定していることは、かなり厳しい目標に挑んでいて、施策では操作できない気がします。例えば、小学校低学年を目標にするとか、施策で対応しやすい年代を目標にすることを考えても良いかと思います。

副委員長：資料1の同項目に、「未来を担う若者指数」が記載されていますが、全国的に高齢化率が高くなっている現在で、「若者」を指標にすることは、先ほどの話と同様に難しいという気がします。人口が減少している中で、生の数字を指標にするのはなかなか難しいんじゃないかと思います。あと、三田市には関西学院大学等があるのに、学校に行き帰るだけになっている学生たちに、大学キャンパスやその周辺で活動を通じて三田に関わりを持ってもらい、「参加して良かった」という達成感をいかに持ってもらうかが大事かと思います。ワークショップなどを開催して意見交換もされていますが、継続的な人と人との繋がりがリソースになるのではないかと思います。最後に、アンケートの回収率が非常に悪いということや、プロジェクトに関わってくれる学生数が増加しないという課題については、大学等と連携し、ある程度システムティックに進めないと、回答率は上がらないと思います。直接、学生に声をかけるとか、目につく頻度を増やすとか、様々な団体等と協力してもらうことも必要かと思いました。

所管部署：まず、「生の数字を指標にするのはなかなか難しいんじゃないか」というご意見ですが、確かに、達成するのは難しい指標になっています。ただ、第5次三田市総合計画の中の指標が前提となっていますので、後期計画の見直し時期に併せて、指標の使い方についても検討させていただきたいと思います。二つ目は、「学校に行き帰るだけになっている学生たちに、大学キャンパスやその周辺で活動を通じて三田に関わりを持ってもらう」というご意見ですが、市としても大切なことだと思っております。今年からスモカモスプロジェクトの卒業生にも関わりをもってもらいながら、活動の幅を広げてもらうような取組みを進めていきたいと思っています。最後に、「アンケートの回収率」についてですが、回収率を上げて様々な方の意見をお聞きしたいと思っておりますので、大学等の協力が得られるかも探りながら、検討していきたいと思っています。

委員：「若者」の定義として、大学生や大学を卒業したばかりの人を「若者」と呼ぶのか、都会に出て少し働いた30歳ぐらいまでの人を「若者」と呼ぶのかによって、ニュアンスは違ってくると思います。学生は、自分の仕事がどんなものに合っているかわからない状態で、とりあえず企業がたくさんある東京都にある企業に応募しています。例えば、三田の中でもこんな楽しい企業があって、働きやすい企業があるみたいな、学生の目を向けさせるよううまく宣伝できれば、「若者が集うまち」の一助になるのではと思いました。全国的に、大学を卒業した学生が、地元に残るということはかなり難しいことですが、東京で働いてみて、また地元に戻ってくるということは可能性としてあり得ると思います。ここで言う「若者」という定義は、どの範囲を指しているのかをとらまえて、直ぐに無理であっても、いずれ地元に戻ってきてもらう「若者が集うまち」を目指すための施策があれば、教えていただきたいと思っています。あと、商工会等との連携についても、お聞きしたいです。

所管部署：「若者」の定義ですが、「若者」というのは高校生ぐらいから、子育て世代、一度都会に出て行って、子育てをするために帰ってきてくれるような世代までを考えています。あとは、スモカモスプロジェクトの中で、三田の企業と連携し、地域課題を解決しながら自己実現を図るというプログラムがあり、三田の企業を知っていただく機会にしています。現在、スモカモスプロジェクトに協力していただいている企業は55社あり、学生

の数によっては出番がない企業もあるので、その企業と学生が集まって、お互いを知り合うようなイベントを開催することも検討しています。その他、企業とのマッチングとして、商工会で「コアラボ」など、様々なイベントを通じて起業・創業を考える若者が集える場や、産業政策課では企業を知ってもらうイベントの1つとしてバスツアーを開催するなど、三田の企業を知ってもらう活動をいくつか実施しています。また、「こうみん未来塾」というプログラムがあり、企業の協力をいただきながら、子どもたちに三田の企業を知ってもらうと同時に、プログラムを体験してもらう事業を展開しています。現在、これらの活動が、一体的なコミュニティになることを想定しており、スモカモスプロジェクトの中で、ディスコードを使用し、全てを集約できるデジタルコミュニティを作ろうと考えています。

委員：年齢によって、アプローチが異なると思っていて、まだ社会に出たことがない人に対するアプローチ方法と、一度社会に出て、帰って来てもらう人へのアプローチ方法は違うように思います。スモカモスプロジェクトで就業体験を通じて地元企業を知ってもらうことは、すごくいいことだと思いますが、就業体験をした人たちに対し、その後フォローをして、追跡していけるような仕組みがあればいいと思います。例えば、都会に出ている先輩・後輩のネットワークを通じて、「今、こんなことを三田でやってるよ」と伝わる仕組みがあれば、転機が訪れた時に、三田に帰って新しいことに挑戦してみようと思うかもしれません。そういう意味で、ディスコードや、SNS等を使用することもいいですが、年齢によってアプローチ方法が違うと思いますし、人生の中で転機が訪れた時に「やっぱり三田に帰ろう」と思ってくれるような年齢によるライフステージごとのアプローチをうまく整理して、接地点を考えられたらいいかと思います。

委員：今、息子が就職活動をしていて、三田にどんな企業があるか全く知らない状況です。親としては、生まれ育った三田で働いてほしいという思いはありますが、今年卒業する学生に対して市内の企業が掲載された一覧表を送付したりされていますか。

所管部署：市内の企業を知ってもらう取組みとしては、過去には工場見学を実施している企業等を市ホームページに掲載したりしていました。市内の企業を知ってもらうということはすごく大事なことだと思っています。本社が三田にある企業もありますが、どうしても東京や大阪にある大企業の方に目が向いてしまい、市内の企業に目が向きにくいということもあります。市内にも大企業ではないですが、魅力的な企業はたくさんありますので、企業のPR動画を市ホームページとリンクさせるなど、引き続き市としても効果的なPRができる方法を考えていきたいと思っています。

委員：現在の市ホームページでも市内企業の情報は見れるのでしょうか。

所管部署：ホームページとのリンクは、他部署で検討している内容となりますので、いつの時点で閲覧できるようになるか等については把握できていませんが、市内の企業をPRして、市内の企業に就職してもらうことは非常に大事なことだと思います。

委員：私も、スモカモスプロジェクトに参加していましたが、当プロジェクトは、三田市内で就職してもらう人を増やすことが目的だったのでしょうか。

所管部署：スモカモスはプロジェクトの主タイトルは「地域活躍人材育成プログラム」です。就職してもらうことが目的ではなく、三田で自己実現してもらうための活動に繋げること

が一番の目的になっています。その活動が、地域活動に繋がっていけば良いなという思いもありますし、活動から就職に繋がり、定住に繋がるのが一番理想的ではありますが、一番は、「三田は楽しいまち」、「三田の人はすごくいい」というような、三田に愛着を感じていただける機会になればいいと考えています。

委員：私は、スモカモスプロジェクトを通じて、三田の印象が変わったとあまり感じていません。市役所の委員会とかにも参加させてもらう一方で、大学生としての両側面を知っている身として、学生と市役所の間ですごくギャップを感じています。スモカモスプロジェクトに携わってきたから、三田で就職したいという子は1人しか知らないですし、思いを実現できているのか疑問に感じるところはあります。「こみんか学生拠点」や、「SSV 関西学院」の方々と一緒に活動すれば、十分三田に愛着が湧くのではないかと思います。市役所は一生懸命頑張っていると思いますが、スモカモスプロジェクトに携わっている学生は、市役所の思いを汲み取れているか疑問に感じます。友達10人ほどが、スモカモスプロジェクトに参加していますが、今でも関わりを持って人は2人ほどしかいません。既に三田で活動している団体とは別の団体を立ち上げ、様々な活動をして愛着を持ってもらうことが目的なのであれば、別にスモカモスプロジェクトでなくてもいいのかなと感じました。

所管部署：既に活動したい団体がある人や、活動する場がある人は、私達も応援していきたいと思います。また、協働推進課では地域活動に関する補助メニューがあり、それぞれ自主活動をサポートするものにも繋げていくことができます。スモカモスプロジェクトは、「自分探し」という表現もあつたりしますが、学生時代に「せつかく三田に来たから三田でできることはないかな」とか、「自分が実はこういうところに興味があつて、それが三田で実現できた」というような、何かに繋がるものは一つでもあればいいのかなと思います。10人の友達のうち、2人の方に関わっていただけたことは、市としてはすごく嬉しいことです。2人の方に、次代の方をサポートしていただきながらコミュニティを醸成していけたらと考えています。実際、東京方面で就職しても、プロジェクトのために帰ってきてくれる人や、東京でのお仕事をしながら、三田のことを気にしてくれる人など、「関係人口」の繋がりも増えてきていますので、少しずつではありますが、土壌をつくっていければと思います。それ以外にも、関西学院大学の授業や、高校の探究活動と連携して、三田の課題を若い人たちに知っていただき、若者目線で解決方法を考えてもらうきっかけになるなど、最後は、スモカモスプロジェクトのコミュニティに繋がっていくことが理想ではありますが、それぞれの活動を支援する体制になってもいいかと思っています。

委員：私も三田のことを授業で学び、三田にすごく興味を持って、いろいろ活動しましたが、OB・OGが20人いても1人参加するかどうかです。興味を持ってくれる人がいても、人数的に多くないというところが、現実にあつて、効率よく三田に関われる機会を増やしてもらえたら、私も嬉しいと感じました。

委員長：今のご意見は、三田に関わる人がどれだけ多く興味をもって残ってくれるかという意見だと思いますが、一方で、「持続的にどう関わっていただくかを工夫したい」というような内容を説明されました。西宮のコミサポというNPO法人では、東京で働いている卒業

生がイベント等に参加するために帰ってきて、西宮のことを東京にいる間もずっと考えてくれて、西宮のために提案してくれています。そういう中間支援を、行政がすべきか、学生が自分たちでやるべきか、わからないですが、モデルとなる取組みはたくさんあると思いますので、参考にしてもらえたらと思います。

委員：市内企業は、新卒を募集するけど応募がないと言っています。例えば、銀行は企業と繋がりががあるので、市と連携して、チラシ等の配布を行うこともいいかと思います。

委員：スモカモスプロジェクトの概要を見ると、対象が三田市内在住・在学の若者、専門学生・大学生と書いてありますが、市内在住の大学生だけでなく、三田に興味を持っている人も対象にすることもいいかと思います。若者の定義は、子育て世代も含めてということでしたが、20歳代中盤から30歳代前半でも、三田で頑張りたいと思っている志の高い人はいっぱいいると思いますので、対象者を限定せずに、もう少し幅を広げて募集しては、いかがでしょうか。

委員：アンケートが集まりにくいという話がありましたが、アンケートに回答した人にポイント付与等は無理でしょうか。子どもたちは、アンケートに回答したら何かポイントがもらえるようなアンケートに対しては、回答しているみたいです。単に、アンケートに回答するだけでは、若者は回答してくれません。若者の生の声を聞きたいなら、何かしらメリットがないと厳しいと思います。

委員長：資料6の3つ目の質問に対して、「移行作業の際に過去参加者の一部は新たな登録を希望されなかったため、結果的に人数が減少することになってしまいました。」と回答が記載されていますが、結構深刻な問題だと思います。見かけ上は、人数が減少していなかったとしても、実際やる気のない人ばかりになってきていて、「もういいや」と思い、登録しているだけの可能性があるということです。これが良い悪いではなく、初年度で見つかったということは改善しないといけないわけです。改善の材料が発見できたということは、非常に重要なことだと思います。登録を希望されなかった理由を聞けば、改善意見がもらえて非常に有効です。苦情から新しいアイデアが生まれたことはよくあることで、仕組みだけが変わったからという理由にしない方がいいかと思いました。あと、ヒアリング中の発言で、「総合計画の指標なので、後期になったら変えるかもしれません」というのは私的には止めた方がいいと思います。毎年、行政評価委員会の外部評価を行う意味がなくなるという気がします。計画は、例えば2020年度に策定して、その後5年先までその計画を進めるわけですが、5年間、「何か違う」と思ってやり続けて、やはり違うと分かったときには、取り返しがつかないと思います。だから、やってみて、考え方とか方向性は合っているけど、この指標だと測れないとわかった時点で改善すべきです。仕組みとして計画から削除することができないのであれば、「0～4歳児童数」だけでなく、小学生のデータを取ればいい話であって、総合計画は、基本的な考え方ですから、あまり重要と思いき過ぎないようにしてください。「違う」と思いながら、5年10年そのまま盲信していくことはやめた方がいいと思います。毎年改善していきながら、思い切って事業を止めることもより効率的な施策にするためには大切なので、あまり仕組みにとらわれ過ぎないように取り組んでいただきたいと思います。見直した結果、事業を止める場合は、外部委員の皆さんからいただいた意見をもとに変更します

たとえば、変更しやすいと思います。

～ 所管部署 退室～

委員長：これでヒアリング対象5施策は全て終了しました。第2回委員会でヒアリングを実施した4施策については既に委員会の評価は決定しましたので、今回は、「若者が集うまち」及び『地域活躍人材育成プログラム「三田スモカモス・プロジェクト」』に対する委員会の評価を決定したいと思います。今のところ「若者が集うまち」はC評価。「スモカモス・プロジェクト」B評価です。特に評価を変えたいご意見がありましたらご発言お願いします。このまま変更なしでいいのか、第2回当委員会の「学校教育の充実」と同じように、「期待を込めて」と言いますか、かなり影響が大きい施策なので「期待を込めてB評価」として、追加意見を付すことでもいいかもしれません。スモカモスプロジェクトについては、昨年1年間の実施分のみしか確認できないので、この事業自体が良い悪いは判断できませんね。今日、意見はいろいろ出ましたので、個別のことから全体に関する事、最後私が申し上げた総合計画の指標に関する意見は、本当に全部の行政評価に関する事として、個別に書かなくてもいいかなという気がしますが、全体に関する意見ということで付していただいてもいいかと思います。では「若者が集うまち」はC評価ということで決定したいと思います。いかがでしょうか。

全委員：出席委員同意。

委員長：次に、『地域活躍人材育成プログラム「三田スモカモス・プロジェクト」』です。「若者が集うまち」と関連項目としてヒアリングしましたが、こちらの事前評価はB評価でした。事前質問は一つしかありませんが、いろんな話も聞けたかという気がします。B評価のままでもよろしいでしょうか。実際に参加した委員から率直な意見を直接伝えることができた気がします。本来は、そういった率直な意見をもっと聞いて改善・発展させていただくことで、「若者が集うまち」に接続していくことが求められるわけですが、『地域活躍人材育成プログラム「三田スモカモス・プロジェクト」』はB評価で決定したいと思います。いかがでしょうか。

委員：私的にはC評価でいいかと思います。もっと頑張ってもらわないとB評価にはしにくいと思います。

委員：三田に愛着を持ってもらうとか、いろいろ意見がありましたが、参加者を見ていても、果たしてどの程度まで愛着をもってやっているのか、私自身、スモカモスプロジェクトに参加したことで、三田で就職したいとは思わなかったことが正直なところではあります。

委員長：先ほど、委員の発言にもありましたが、神戸市ですら学生に興味を持ってもらえない。これは、担当部署の責任ではありませんよね。その状況の中、何とかしようとしているプロジェクトであるということ、行政評価委員としてはわかっておかないといけない部分でもあります。私は、10人中2人残っているなら大きな成果だと思いますが、1人2人の方の思いで繋がった成功体験をどう繋げていくかというところは少し物足りないと思いました。評価の仕組みとしては、昨年度に実施したことを評価することになっています。見通しがあまりにも違いすぎた場合は修正が必要になると思いますが、まだ実施していないことの評価はできません。そういった見方をベースにした意見をいただければと思います。

委員：スモカモスプロジェクトは、大学生に自分を育てたいことを体験してもらって、自己実現の場にしてもらおうという、すごく崇高な目標で、それに共鳴する大学生はいいと思いますが、もっとダイレクトに、定住方向からアプローチをしていった方がいいと思いますし、自己実現のワークショップをいろんなところで実施しているなら、もっとダイレクトに「こんな家があるけど行って見ない?」、「三田の企業と一緒に何か物づくりしよう!」みたいなダイレクトに働きかけて行った方がいいのではないかと思います。そういう意味で、スモカモスプロジェクト自体の目的が何か、「自己実現の場」とか回りくどい言い方をせずに、本当に三田に住んでくれるように仕向けていく方に舵を切っていけば、目的もわかりやすくなると思います。そういう意味ではC評価にするというのも一つかもしれないですね。

副委員長：私は教育をする立場として、効果はその年に出るというのはすごく少ないと思います。先日、久しぶりに卒業生に会い話をすると、学生時代の思いを今でも持ち続けていて、東京の企業で仕事をしながら、学生時代の思いを、今の仕事を通じて実現しようと考えていました。直ぐに効果として出る施策もあれば、転機が訪れた時に帰ってくるということもあり得るのかと思います。やっぱり直接的に、直ぐ結果が出る施策もいいんですが、中長期視点で、仕掛けていく施策も大切だと思います。それが1人2人でも私としてはそれなりに成果だと考えてしまいますが、「今年結果が出ていないから違う」ということではなく、何年もかけて学生たちが社会人になっていく過程で、いろいろ考えが出てくるのではないかと思います。ただ、ダイレクトに施策を実施していくことも、プラスアルファで考えていくことも必要と思います。

委員長：私の記憶が正しければ、スモカモスプロジェクトは、東京の大学を出たような、若い方々が企画を考えていた気がします。若い人の感覚でやっているから、若い人に近い感覚になるのだらうと思いますが、若い参加者から、わかりにくいという意見も出ているようです。これは大事な意見だと思います。行政評価委員会としては、「わかりにくい」評価等については、はっきりと伝えた方がいいのかという気がします。こういった柔らかいスキーム自体も、もう少しわかりやすさも含めて、学生のニーズも汲み取りながらやってくださいということは大切なので、強めに伝えていくというのは、重要な論点だったかなという気がいたします。その上で、C評価にするか、B評価のままにして、評価も含めて強めに意見を伝えるか、または、評価は悪くないけれども、委員会の中では、結構意見が出ていたことを伝えることにしていくか。皆さんの意見を組み合わせると、効果はすぐに出ないということもあり、改善も含めて、例えば来年2年目、3年目にしっかりと見ていった方が、評価自体はいいのかなという気がします。B評価だけでも、意見を遠慮なく書いて提出するような方針でいかがでしょうか。

全委員：出席委員同意。

委員長：それでは、B評価で決定します。ただ、特に参加者から「目的がわかりにくい」というような意見も出ましたので、追加意見としてはっきりと書いてお伝えできればと思います。所管部署も、スモカモスプロジェクト委託先にきちんと改善を求めていくことをお願いしたいと思います。

次は、ヒアリング対象外施策に対する最終評価ということで、資料6及び資料8のヒ

アリング対象外施策に対する質問等に基づき進めていきます。質問に対して、比較的丁寧に回答をいただいたような気がします。資料6の回答も確認いただきながら、特に自分が質問した内容を思い出して、妥当な回答になっているか再度ご確認をお願いします。私は、評価を変えるほどではありませんが、「いつまでも学び活躍できるまちづくり」施策に対する回答に、追加意見として提出したいと思いました。「自動貸出機等の導入による図書館のサービス向上や予約した本をセルフで受け取れるコーナーの設置などにより利用者の利便性向上を図りました。」と記載がありますが、図書館サービス向上は記載されているけれども、図書館というのは、資料館としての役割がありますが、総じて全国的に指定管理者による運営となった場合、自習スペースだけがあって、資料館の施設設備が減っています。そこを質問したのですが、貸し出しサービスのことしか回答されていません。この回答を読んで、「知の拠点」になっていないと更に思いました。他の図書館、博物館、水族館、美術館も同じで、「知の拠点」が全国的に減っていると思います。ぜひ、「知の拠点」、図書館の資料館としての役割をさらに果たしていただくような努力をしてくださいということを、追加意見としてお伝えいただければと思います。他ないようであれば、ヒアリング対象外施策についての評価は、資料6の事前評価のままで委員会の評価として決定したいと思います。次は、「今後の流れ及び答申書(案)」について、事務局から説明をお願いします。

事務局：「今後の流れ」及び「答申書(案)」について説明。

委員長：答申書(案)は、資料9に基づいて作成していただきます。「ヒアリング対象施策」については5施策。最終ページの「外部評価での主な意見」については、点線で囲んでいる部分に、皆さんからいただいたご意見を端的にまとめて記載します。最後のページの、「(4)ヒアリング対象外施策に対する意見等」については、ヒアリング対象外施策に対する委員会の意見を掲載します。先ほどの図書館に関する意見が記載されるイメージでしょうか。「総合計画のことを気にしすぎない。そのまま5年間進めていくことはあまりないようにしてください」という全体に対する改善の意見も、この部分に記載することになるかもしれません。以上のようなまとめ方で進めさせていただきますので、委員の皆さんもご協力お願いいたします。最終的には、議事録同様に私と事務局において調整させていただくことで、よろしいでしょうか。

全委員：出席委員同意。

委員長：では、そのように進めてまいります。以上で本日の議事は全て終了します。

～ 閉会 ～